



2008 環境展

今年も6月3日～6日で東京ビッグサイトにて開催されました。昨年同様に東ホールすべてと屋外展示場を使用した「アジア最大級」というタイトルを裏切らない規模でした。

厳密にアジアでどの程度の規模の環境に関する展示会が開催されているかはリサーチしておりませんが。

今年も毎度おなじみの物、異常気象による夏の暑さ対策、屋上や壁面の緑化など興味深いブースもあり、勉強になりました。

今回興味があったのは蛍光灯の器具はそのまままで使用できるLED 蛍光灯でした。電気消費量と明るさ、それと寿命を見て、費用対効果があるかどうかを知りたかったのです。

結論はというと、残念ながら費用対効果は得られないとの話でした。やはり白色LEDは明るいけどまだ高価だということです。これには日亜化学工業の白色LEDを使用しており、消費電力(20W 蛍光灯比で約1/4)や明るさなど郡を抜いており素晴らしいものです。実は我家もクリスマスのおきに買ったイルミネーションが日亜化学さんの白色LEDを使用したものでした。明るいですが、おせじ抜きに本当に明るいです。お値段もそれなりにしましたが。

このLEDを国産品ではなく、海外製の物にすると、価格は半分ぐらいになるとのお話がありました。しかし、消費電力は蛍光灯の半分程度にまでしか削減できないとの話でした。

CO2の排出量となれば32kg/年の削減(メーカーカタログ参照)ができるそうです。

このあたりは各企業にとってもコストと環境対応のバランスが難しいところでしょう。

興味のある方は下記をご覧ください

LED蛍光灯・日本アドバンテージ(株)
<http://www.led-light.jp>

最近の廃棄物の傾向

近年の中国動向から日本で以前は廃棄物だった物が有価物になったりしています。一番わかりやすい物がペットボトルでしょう。

以前はリサイクルにコストがかかり、廃ペットボトルから生み出される繊維への加工コストの高さから公官庁や自治体、一部民間企業が作業服として採用する程度にとどまりました。

それが今や、各自治体はペットボトルを分別収集し、入札で販売するという事態になっています。かなりの数量が海外に販売されたと見られます(2004年度で約20万トン程度)。

このようなケースは産業廃棄物でも当てはまりません。いままで産業廃棄物で処分していたものが有価になり、マニフェスト対象外となることもあります。本来マニフェストは廃棄物を対象にしたものだから有価で販売したものについては対象外となります。ここで排出事業者の皆様が注意しなければいけないのが偽装有価物です。品物自体に買い取り価格を付け、有価物を装い、運賃を通常の何倍にも相当する金額を請求するケースです。本当は廃棄物で処分費用がかかるものを運賃で充当して不適正処分をするというものです。総合判断説では品物は有価でも、運賃で補うというのは偽装とみなされ、もし不法投棄になっていけば、排出事業者責任を問われることになるでしょう。

売却物(有価物)だからといって注意を怠って、ひょんなところから出てこないように注意だけはしておいたほうがよいでしょう。一度販売したものですからどのように取り扱うか注文をつけることは難しいと考えます。またこの際にマニフェストを利用するケースが見受けられますが、これについてはなんら法的な拘束力は無く、受け渡し伝票程度と考えたほうがよいでしょう。

特に海外では日本語が書いてあると、きちんと管理メンテナンスされた証拠だと考えて、会社名などをわざと消さないこともあるようです。

テレビの報道番組などを見ていたらぼっかり名前が出ていたなどということがないようにご用心ください。

ガソリン代の高騰ですが。

ガソリン代が高くなると燃費の良い車にしようと考えますよね。そうするとハイブリッドカーかなと考えますよね。でも今年から燃費も良く燃料代も安いディーゼルも復活してきます。さて、ハイブリッドとディーゼル、どちらがエコで経済的でしょうか？